

地域計画

策定年月日	令和7年1月31日
更新年月日	令和7年4月15日 (第 1 回)
目標年度	令和11年度
市町村名 (市町村コード)	いわき市 204
地域名 (地域内農業集落名)	平赤井地区 (平赤井)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	131.3 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	130.7 ha
② 田の面積	97.7 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	30.3 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0.6 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	— ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	— ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	— ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

・赤井地区では、水稻(商標:「白鳥飛来の郷の米 ライスワン」(赤井地区で生産された米に限る))や、トマト、マコモダケの栽培を主とし、個人の担い手を中心に営農が行われている。

・水については、パイプラインが整備されているため利便性が高く、作業効率が良い。

・地区の現状としては、多面的機能支払交付金制度等の補助制度を活用しながら、地域全体で農地の維持に取り組んでいる。

・高齢化及び後継者不足により、耕作者の減少が想定されることから、今後の農地管理体制をどのように図っていくかが課題となっている。

・今年度はイノシシの発生が増加して一方で、罠に掛かる数は減ってきており、被害が増加している。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

・営農環境の整備については、地域全体及び関連機関と連携を図りながら、改善策を検討していく。

また、「どここの農地をどのように管理していくか」を筆ごとに検討し、より具体的に農地活用を考え、農地の現状維持を図っていく。

・相対での耕作者については、中間管理機構の活用を促し、効率的に土地利用が行われるように努めていく。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
・農地の状況及び課題を把握し、対応策について検討していく。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	41.8	%	将来の目標とする集積率
			41.8 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
・地域の担い手の状況に応じて、集団化・集約化を進めていく。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組	
・地域の担い手を中心に農地を集積し、効率的に農作物の生産を行う。	
(2)農地中間管理機構の活用方法	
・農地中間管理機構の活用を検討する。	
(3)基盤整備事業への取組	
・必要に応じて検討していく。	
(4)多様な経営体の確保・育成の取組	
・市、県、JA等の関係機関と連携し、地域の担い手となる者の確保・育成に努める。	
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組	
・育苗(福島さくら農業協同組合)	
以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)	
☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料
☐ ③スマート農業	☐ ④輸出
☐ ⑤果樹等	☐ ⑥燃料・資源作物等
☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設
☐ ⑨耕畜連携	☐ ⑩その他
【選択した上記の取組内容】	
①地域による鳥獣被害対策として電気柵等を設置して対策していく。	
⑦水路の維持管理や、圃場や農道の草刈りなど継続していく。	

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 11 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	A氏	水稻・野菜	24.9 ha	ha	水稻・野菜	24.9 ha	ha	A氏	
認農	B氏	水稻・野菜	9.3 ha	ha	水稻・野菜	9.3 ha	ha	B氏	
利用者	C氏	水稻・野菜	3.8 ha	ha	水稻・野菜	3.8 ha	ha	C氏	
利用者	D氏	水稻・野菜	3.5 ha	ha	水稻・野菜	3.5 ha	ha	D氏	
利用者	E氏	水稻・野菜	3.5 ha	ha	水稻・野菜	3.5 ha	ha	E氏	
利用者	F氏	水稻・野菜	2.5 ha	ha	水稻・野菜	2.5 ha	ha	F氏	
認農	G法人	水稻・野菜	2.2 ha	ha	水稻・野菜	2.2 ha	ha	G法人	
利用者	H氏	水稻・野菜	1.6 ha	ha	水稻・野菜	1.6 ha	ha	H氏	
利用者	I氏	水稻・野菜	1.4 ha	ha	水稻・野菜	1.4 ha	ha	I氏	
利用者	J氏	水稻・野菜	0.7 ha	ha	水稻・野菜	0.7 ha	ha	J氏	
認農	K法人	水稻・野菜	1.2 ha	ha	水稻・野菜	1.2 ha	ha	K法人	
認農	L氏	水稻	0.4 ha	ha	水稻	0.4 ha	ha	L氏	
計	12経営体		54.9 ha	0 ha		54.9 ha	0 ha		

注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。

2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。

3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。

4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。

5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目
1	福島さくら農業協同組合	育苗	水稻等

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。

注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。

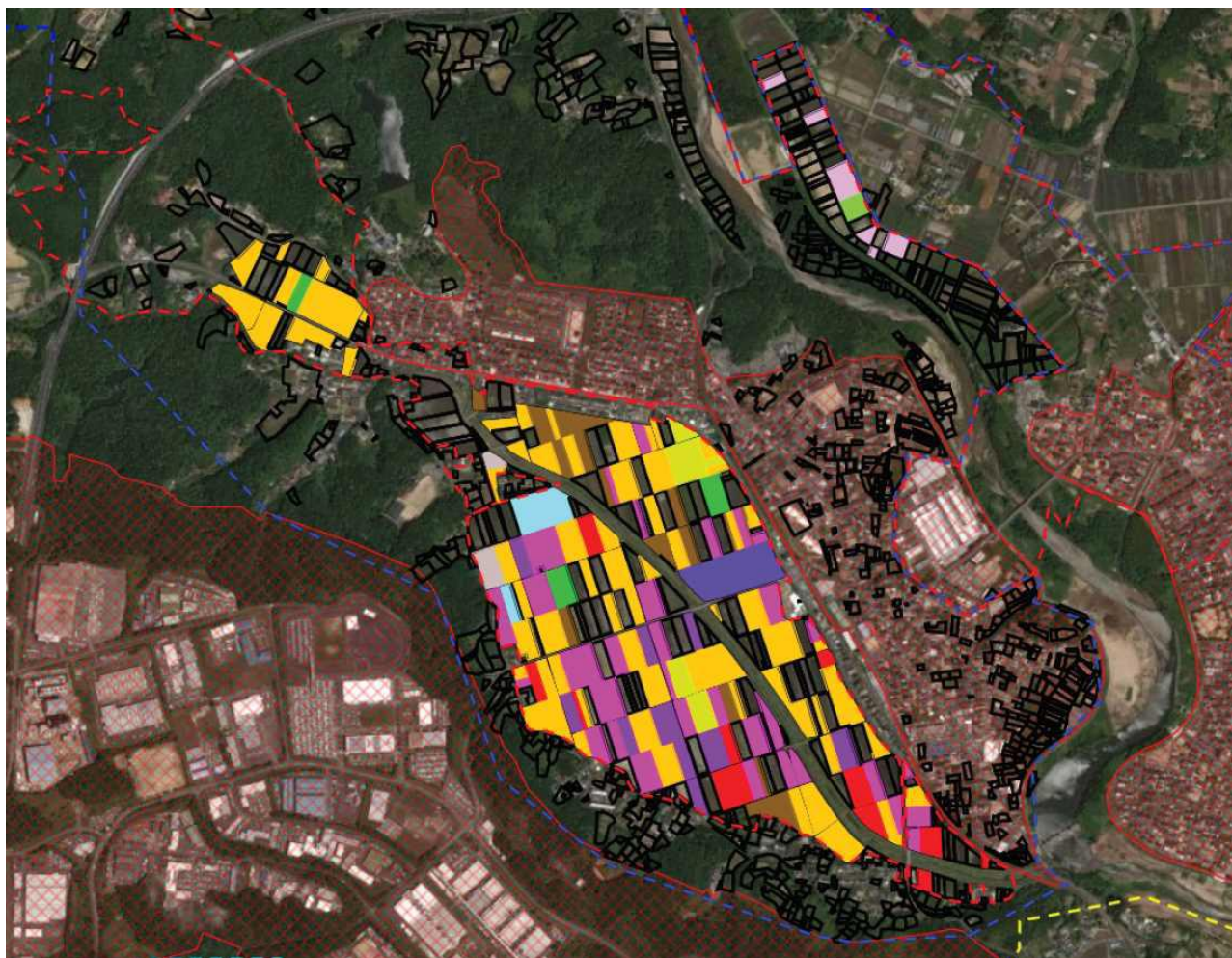
注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報を保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。



目標地図(赤井地区)

耕作者

